

6 3 6 1 - 7 4 2
平成 2 0 年 8 月 4 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

病害虫防除情報第 5 号

いもち病の発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

いもち病の防除を徹底しましょう。

1 . 作物名 普通期水稲

2 . 病害虫名 いもち病

3 . 発生状況

- 1) 7 月中旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は 2.4% (平年 17.0%) で平年比やや少、発病度は 0.02 (平年 1.75) で平年比少の発生であったが、その後の 7 月下旬調査においては、発生面積率 29.4% (平年 40.9%)、発病度 3.94 (平年 4.23) でいずれも平年並の発生となり、短期間で急激に増加している (図 1 , 2)。
また、特に県北地域において発生面積率、発病度のいずれも高い (表 1)。

- 2) 巡回調査地点以外においても県内全域で葉いもちの発生が確認されており、一部地域では上位葉での発病も見られる。

4 防除上の注意

- 1) 現在の天候では急激な病勢の進展はないと考えられるが、朝霧の発生や夕立の多い地域では今後の発生状況に注意する。
- 2) 穂いもちを対象に、穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。
- 3) 葉いもちが上位葉に発生している場合や、出穂期及びその後も降雨が続いて穂いもちの発生が予想される場合は、穂揃期の 7 ~ 1 0 日後に追加防除を行う。
- 4) 箱施薬剤を実施したほ場でも、残効が切れた後に葉いもちの発生が多くなる場合があるので注意する。
- 5) 雨が多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。
- 6) 防除薬剤等その他の詳細については関係機関に照会すること。
- 7) ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払い、農薬使用基準を遵守し危害防止に努める。

表 1 調査地点における 7 月下旬の葉いもち発生状況（地域別）

区分	調査地点数	程度別発生面積率（％）				発生面積率（％）	発病度
		甚	多	中	少		
北諸	10				0.0	0.0(0.0) ^{a)}	0.00(0.00)
西諸	8				25.0	25.0(12.5)	0.75(0.13)
県北	10		30.0	50.0		80.0(50.0)	12.80(7.50)
東諸	6				0.0	0.0(0.0)	0.00(0.07)

a) 前年値

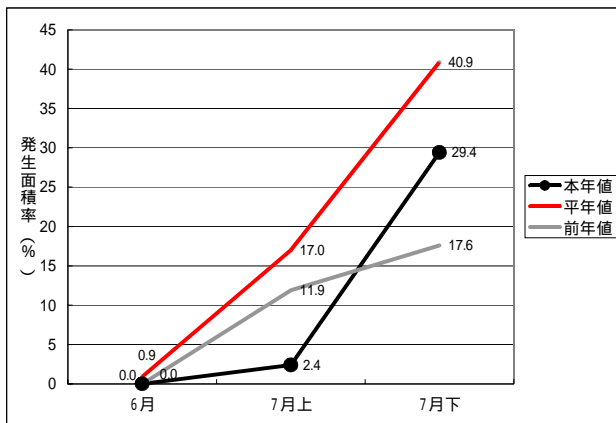


図 1 調査地点における発生面積率の推移（全県）

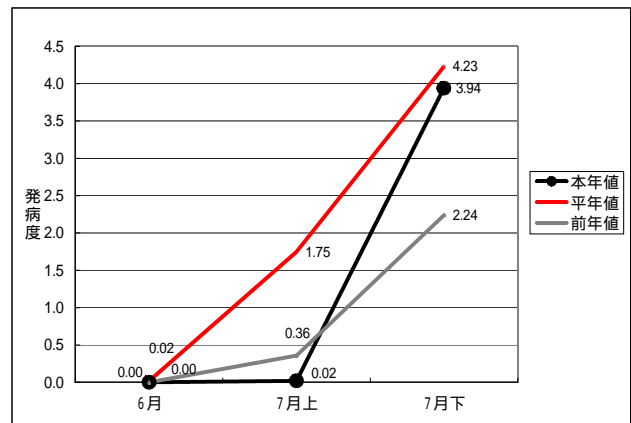


図 2 調査地点における発病度の推移（全県）

連絡先

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 加治佐

:0985-73-6670 Fax:0985-73-7499

E-mail:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp